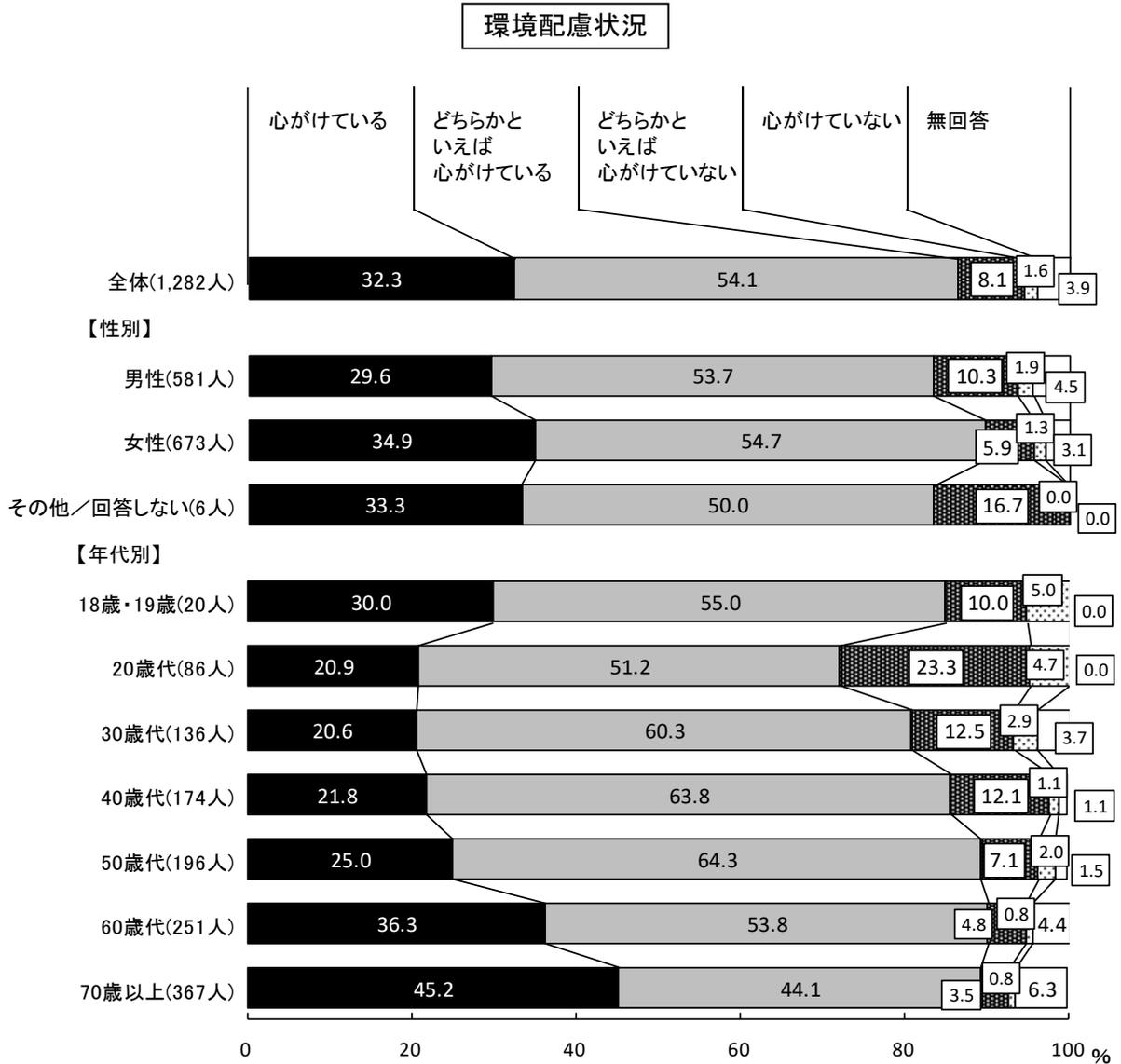


3 環境について

3-1 環境配慮状況

◆ “環境に配慮した生活を心がけている” 86.4%◆

問9 あなたは、環境に配慮した生活を心がけていますか。1つ選び、番号を○で囲んでください。



全体で見ると「心がけている」は32.3%、「どちらかといえば心がけている」は54.1%で、両者をあわせた86.4%が“環境に配慮した生活を心がけている”と回答しています。

性別で見ると“環境に配慮した生活を心がけている”は女性(89.6%)が男性(83.3%)を6.3ポイント上回っています。

年代別で見ると「心がけている」は70歳以上で45.2%と最も高く、次いで60歳代で36.3%となっています。また“環境に配慮した生活を心がけている”は、60歳代で90.1%と最も高く、50歳代、70歳以上でもともに89.3%となっています。一方、20歳代では「心がけていない」(4.7%)と「どちらかといえば心がけていない」(23.3%)の両者をあわせた“環境に配慮した生活を心がけていない”が28.0%と、他の年代に比べ高くなっています。

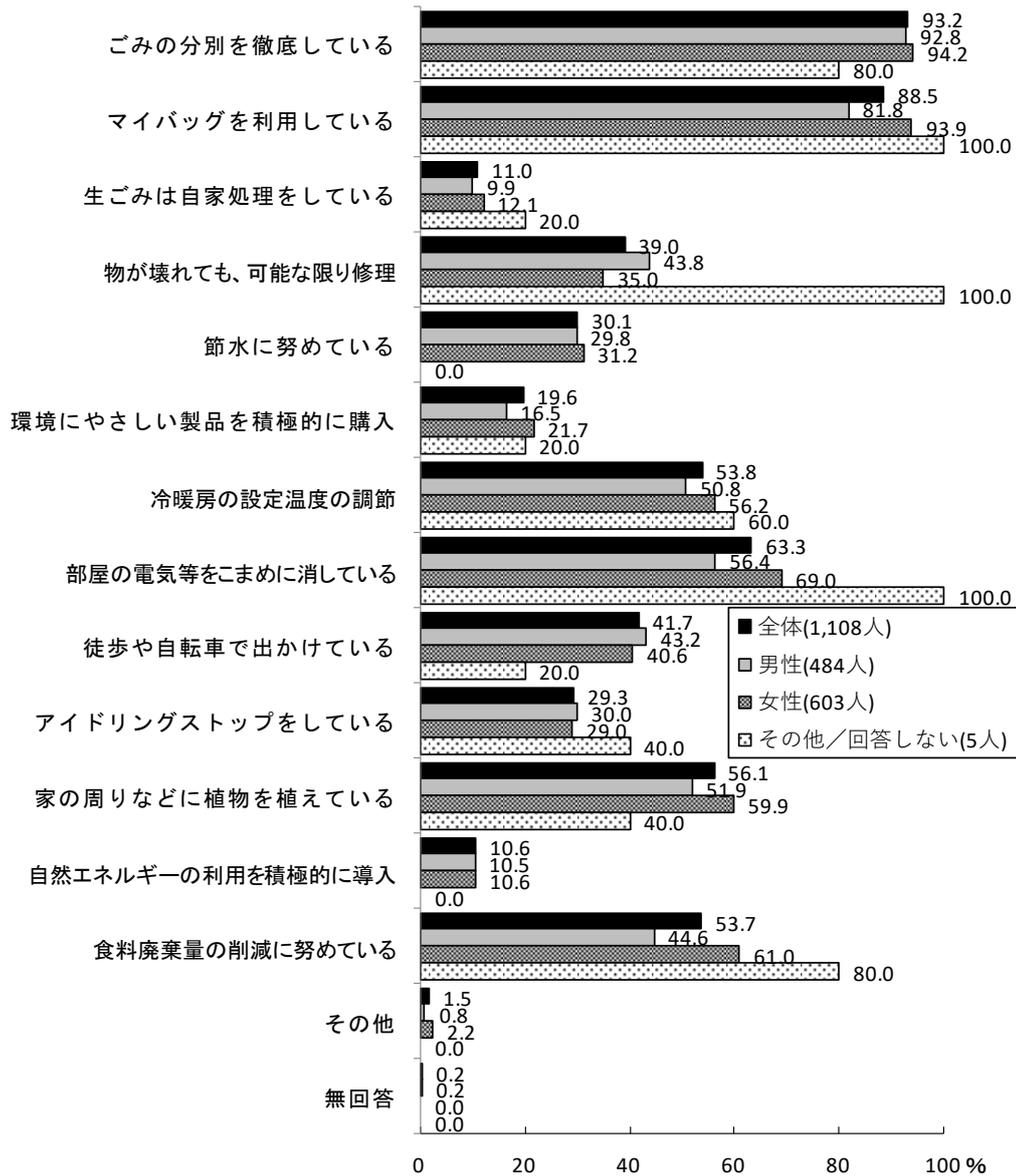
3-2 環境配慮のために心がけていること

◆「ごみの分別を徹底している」93.2%◆

(問9で「心がけている」または「どちらかといえば心がけている」とお答えの方におたずねします)

問9-1 日常生活の中で、具体的に心がけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号を○で囲んでください。

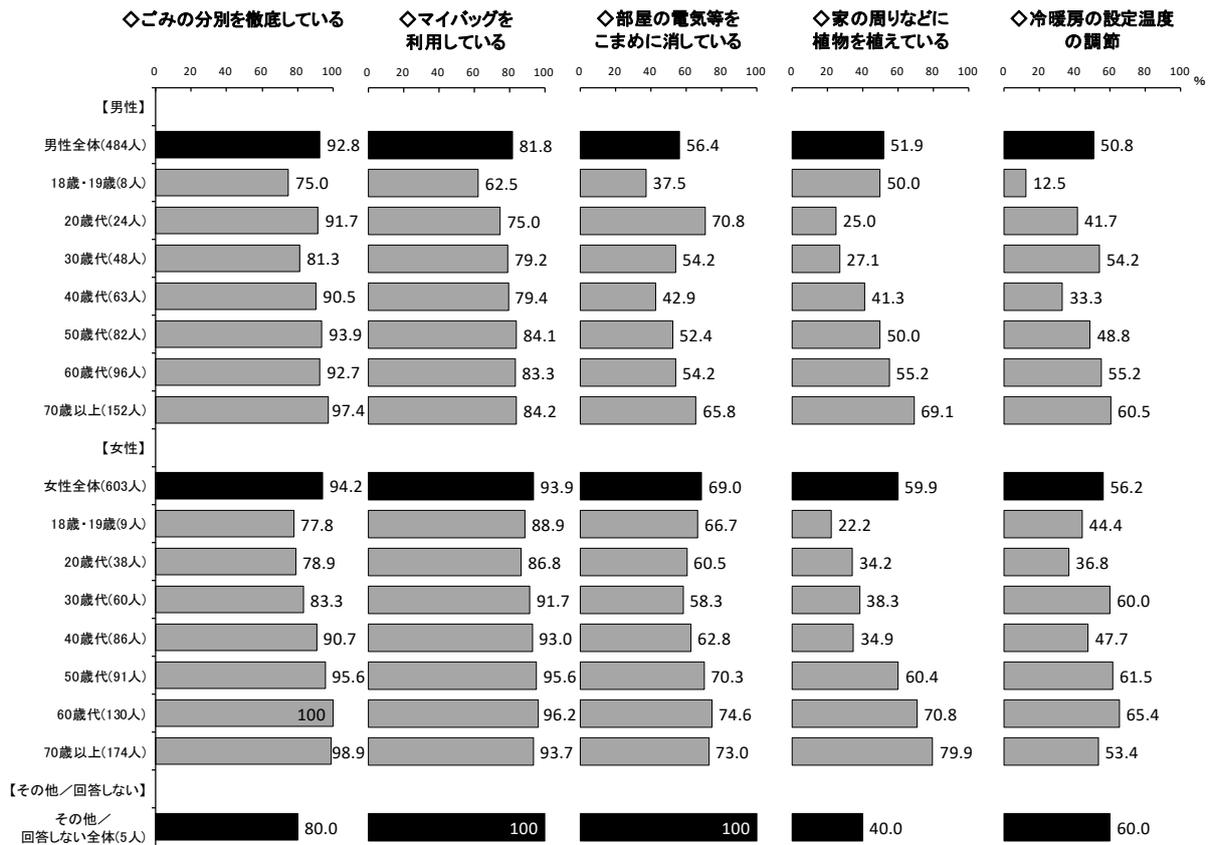
環境配慮のために心がけていること (全体・性別)



全体では「ごみの分別を徹底している」が93.2%で最も高く、次いで「マイバッグを利用している」(88.5%)、「部屋の電気等をこまめに消している」(63.3%)、「家の周りなどに植物を植えている」(56.1%)、「冷暖房の設定温度の調節」(53.8%)と続いています。

性別で見ると「マイバッグを利用している」「部屋の電気等をこまめに消している」「食料廃棄量の削減に努めている」は女性が男性を10ポイント以上上回っています。

環境配慮のために心がけていること（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「ごみの分別を徹底している」は男性・女性とも全ての年代で高い割合で行われており、特に女性の60歳代では100%となっています。

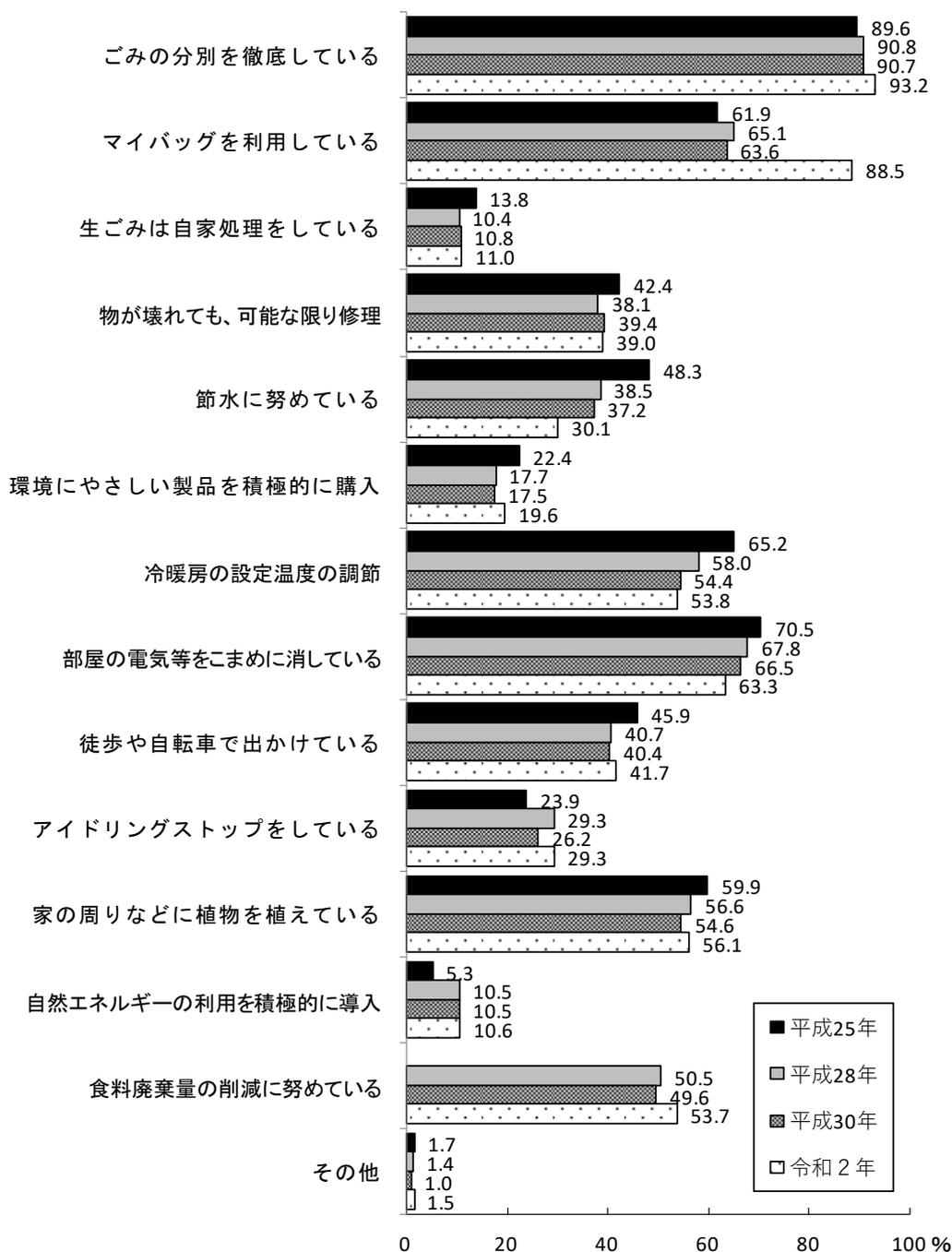
「マイバッグを利用している」は女性では30歳代以降で9割を超え高くなっています。男性は50歳代以降で8割を超え高くなっています。

「部屋の電気等をこまめに消している」は男性では20歳代が70.8%と最も高く、女性では50歳代以降で7割台と高くなっています。

「家の周りなどに植物を植えている」は男性・女性ともに年齢が高くなるほど割合が高い傾向となっており、男性・女性ともに70歳以上が最も高く、男性では69.1%、女性では79.9%となっています。

「冷暖房の設定温度の調節」は男性の70歳以上（60.5%）が最も高く、女性では60歳代（65.4%）が最も高くなっています。

環境配慮のために心がけていること（経年比較）



※「食料廃棄量の削減に努めている」は、平成28年度からの選択肢です。

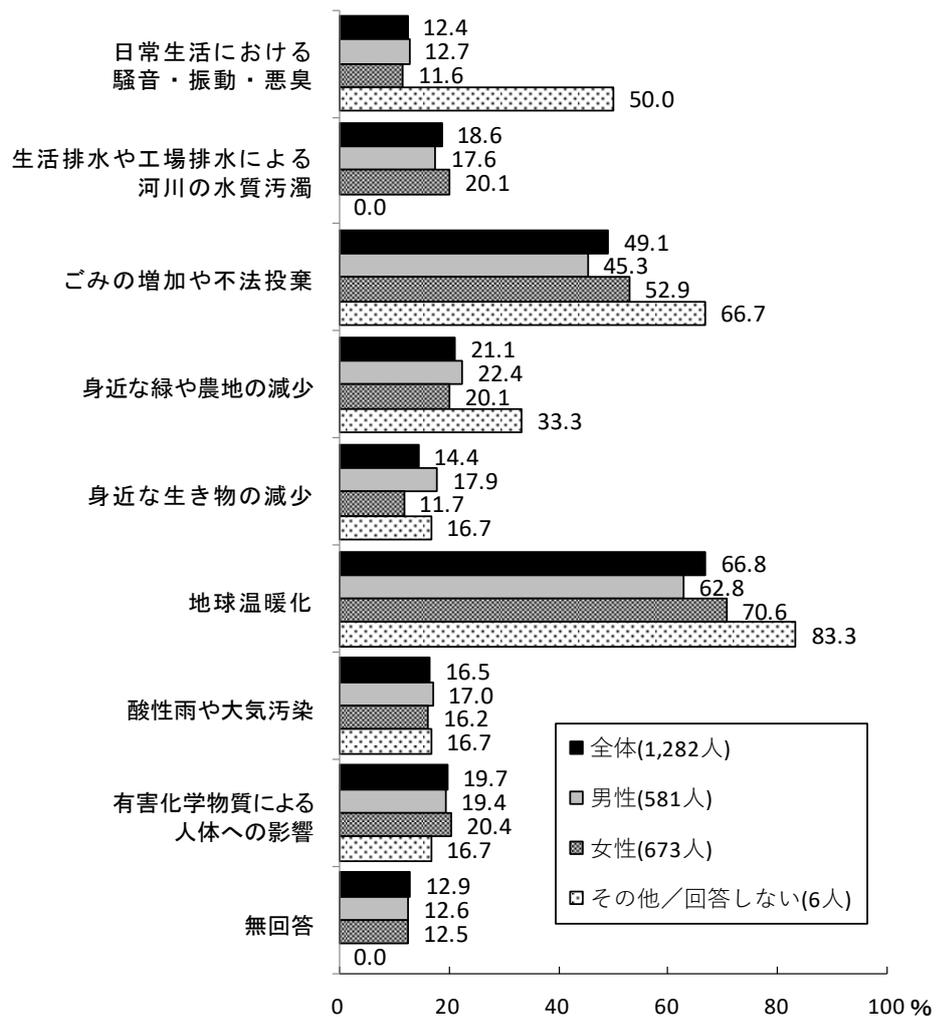
平成30年度調査と比較すると「マイバッグを利用している」が24.9ポイントと大幅に増加しています。また、「食料廃棄量の削減に努めている」が4.1ポイント増加しています。一方「節水に努めている」は7.1ポイント減少しています。平成25年度調査以降、「ごみの分別を徹底している」は増加傾向がみられます。

3-3 環境問題の深刻度・重要度

◆「地球温暖化」「ごみの増加や不法投棄」が深刻度、重要度ともに比較的高い◆

問 10 環境問題について、次にあげる項目で、「すでに深刻な問題である」ということと、今後、改善していくうえで「重点的に取り組んでいく必要がある」ということについて、それぞれ3つまで選び、番号を○で囲んでください。

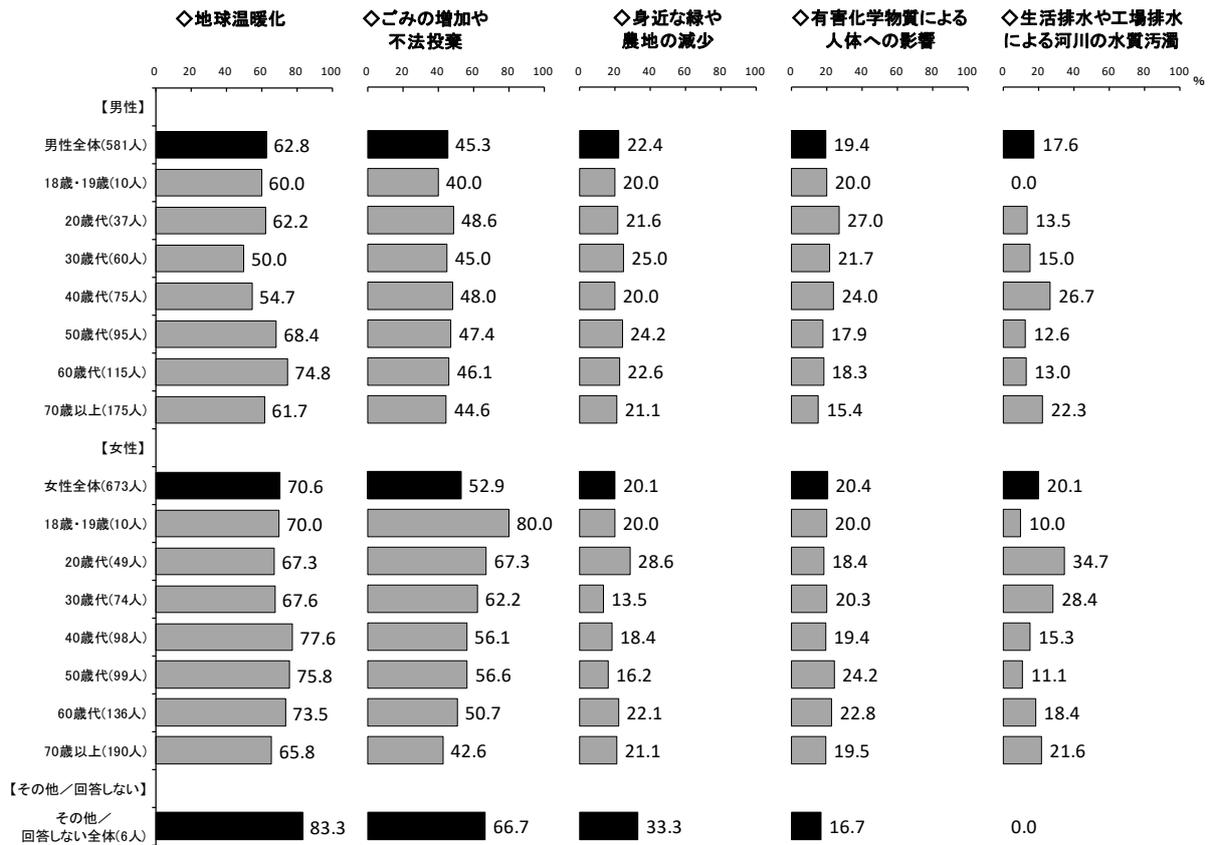
深刻と考える環境問題（全体・性別）



深刻と考える環境問題は、猛暑の影響か全体では「地球温暖化」が 66.8%と最も高く、次いで「ごみの増加や不法投棄」(49.1%)、「身近な緑や農地の減少」(21.1%)、「有害化学物質による人体への影響」(19.7%)、「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」(18.6%)、「酸性雨や大気汚染」(16.5%)、「身近な生き物の減少」(14.4%)、「日常生活における騒音・振動・悪臭」(12.4%)と続いています。

性別でみると「ごみの増加や不法投棄」「地球温暖化」は女性が男性を5ポイント以上、「身近な生き物の減少」は男性(17.9%)が女性(11.7%)を6.2ポイント上回っています。

深刻と考える環境問題（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「地球温暖化」は男性の60歳代(74.8%)、女性の40歳代(77.6%)が最も高くなっています。

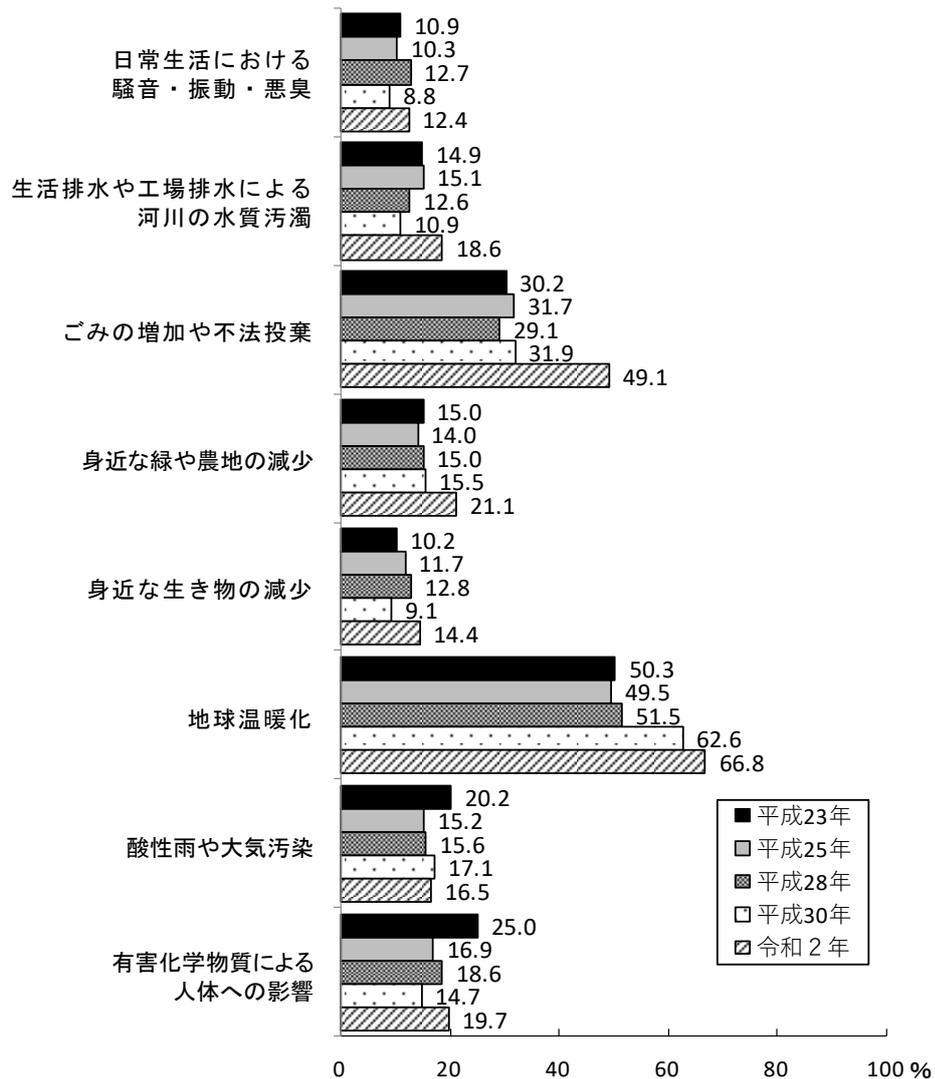
「ごみの増加や不法投棄」は女性の年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向となっており、70歳以上では42.6%と最も低くなっています。

「身近な緑や農地の減少」は男性に大きな差はみられませんが、女性の20歳代では28.6%と他の年代に比べ高くなっています。

「有害化学物質による人体への影響」は男性の20歳代(27.0%)、女性の50歳代(24.2%)が最も高くなっています。

「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」は男性の40歳代(26.7%)、女性の20歳代(34.7%)が最も高くなっています。

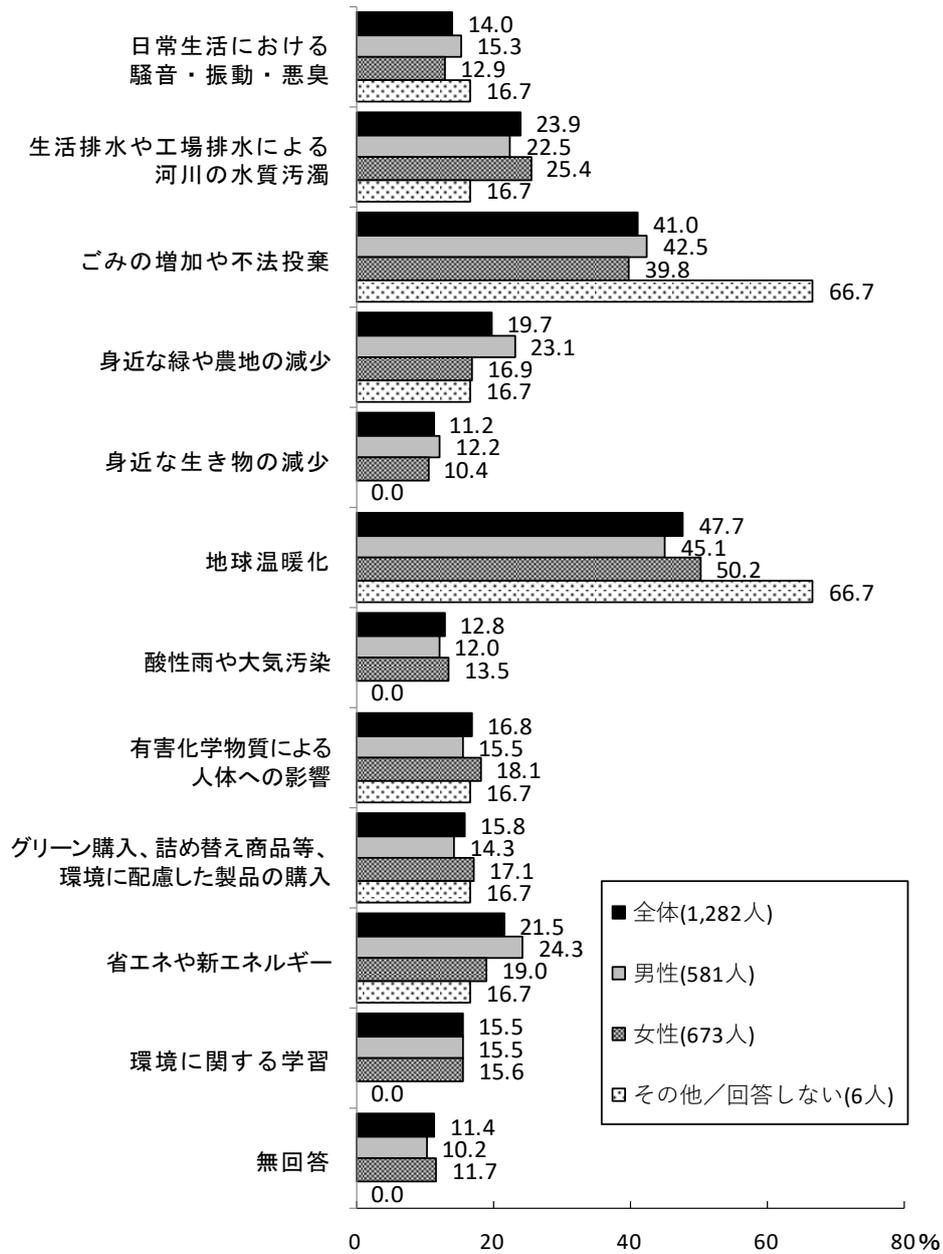
深刻と考える環境問題(経年比較)



平成30年度調査と比較するとほとんど全ての項目で増加傾向にあり、特に「ごみの増加や不法投棄」は17.2ポイント増加しています。また、「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」「身近な緑や農地の減少」「身近な生き物の減少」「有害化学物質による人体への影響」は5ポイント以上増加しています。

平成23年度調査以降、「ごみの増加や不法投棄」「身近な緑や農地の減少」「地球温暖化」は増加傾向がみられます。

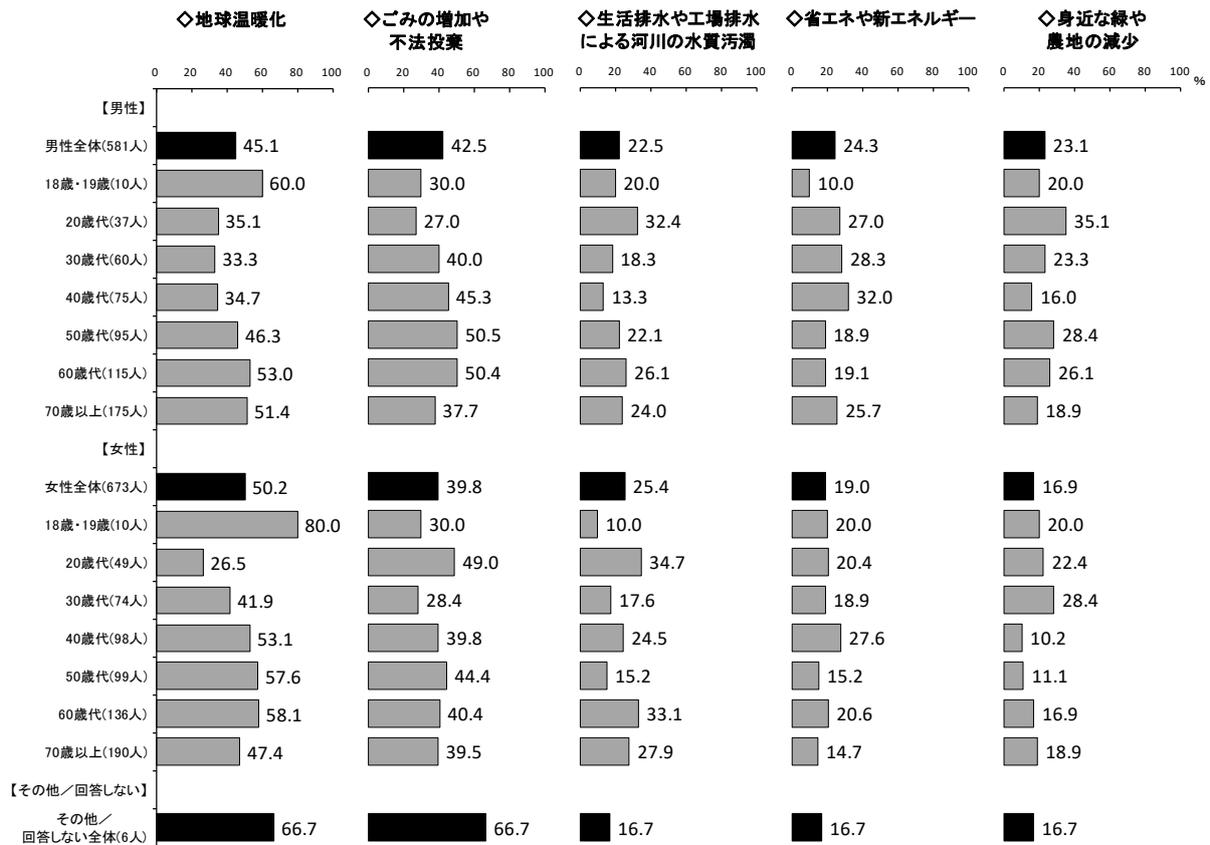
重点的に取り組んでいく必要がある環境問題(全体・性別)



重点的に取り組んでいく必要がある環境問題は、全体で見ると「地球温暖化」が47.7%で最も高く、次いで「ごみの増加や不法投棄」(41.0%)、「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」(23.9%)、「省エネや新エネルギー」(21.5%)、「身近な緑や農地の減少」(19.7%)と続いています。

性別で見ると「身近な緑や農地の減少」は男性(23.1%)が女性(16.9%)を6.2ポイント、「省エネや新エネルギー」は男性(24.3%)が女性(19.0%)を5.3ポイント上回っています。また「地球温暖化」は女性(50.2%)が男性(45.1%)を5.1ポイント上回っています。

重点的に取り組んでいく必要がある環境問題（上位5項目 性・年代別）



性・年代別でみると「地球温暖化」は男性・女性ともに18歳・19歳が最も高く、男性が60.0%、女性が80.0%となっています。

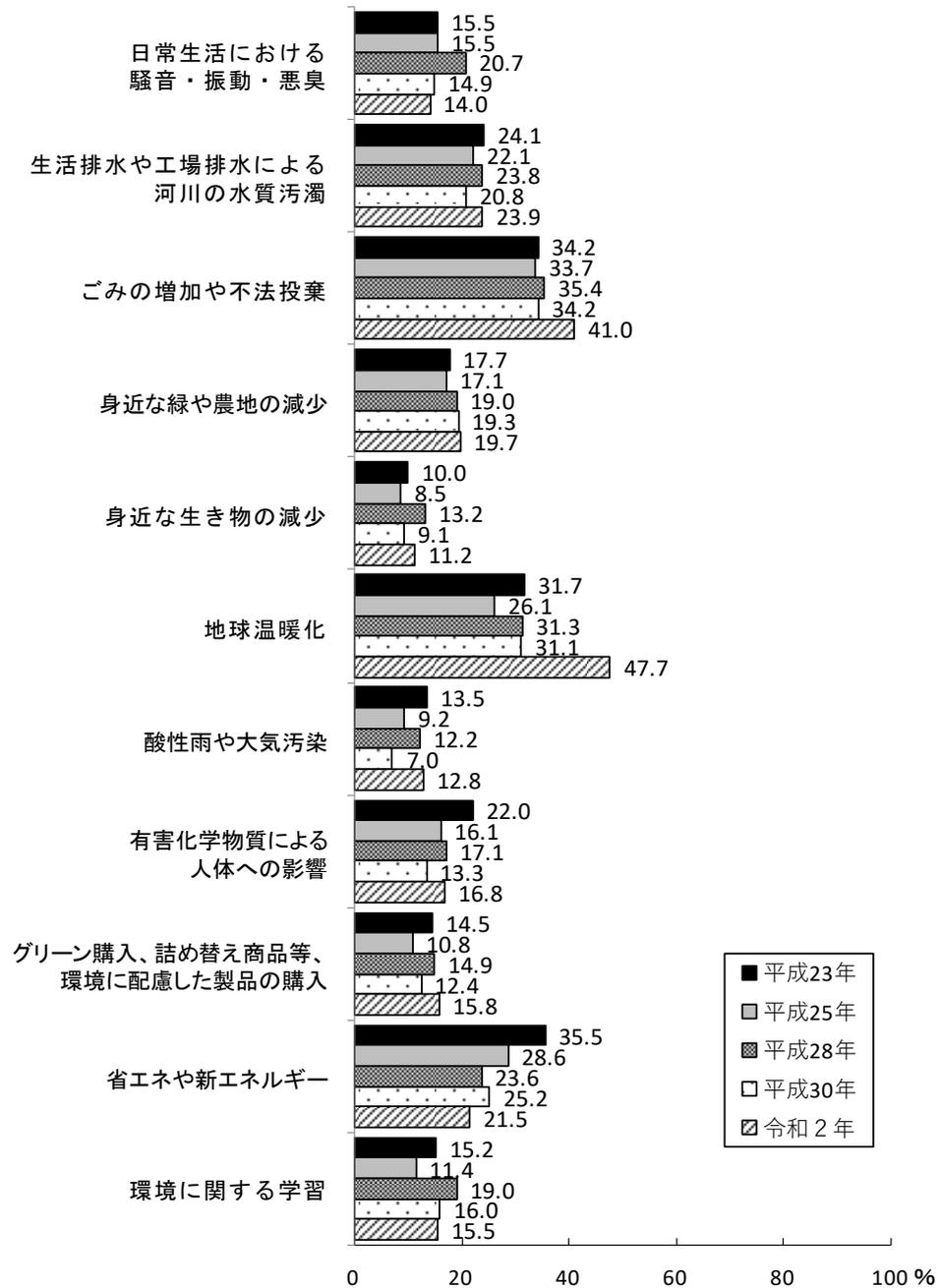
「ごみの増加や不法投棄」は、男性の50歳代(50.5%)、60歳代(50.4%)、女性の20歳代(49.0%)が高くなっています。

「生活排水や工場排水による河川の水質汚濁」は男性・女性ともに20歳代が最も高く、男性が32.4%、女性が34.7%となっています。また、女性の60歳代(33.1%)も高くなっています。

「省エネや新エネルギー」は、男性の30歳代を除く全ての年代で1割台から2割台となっています。

「身近な緑や農地の減少」は男性の20歳代で35.1%、女性の30歳代で28.4%と最も高くなっています。

重点的に取り組んでいく必要がある環境問題（経年比較）

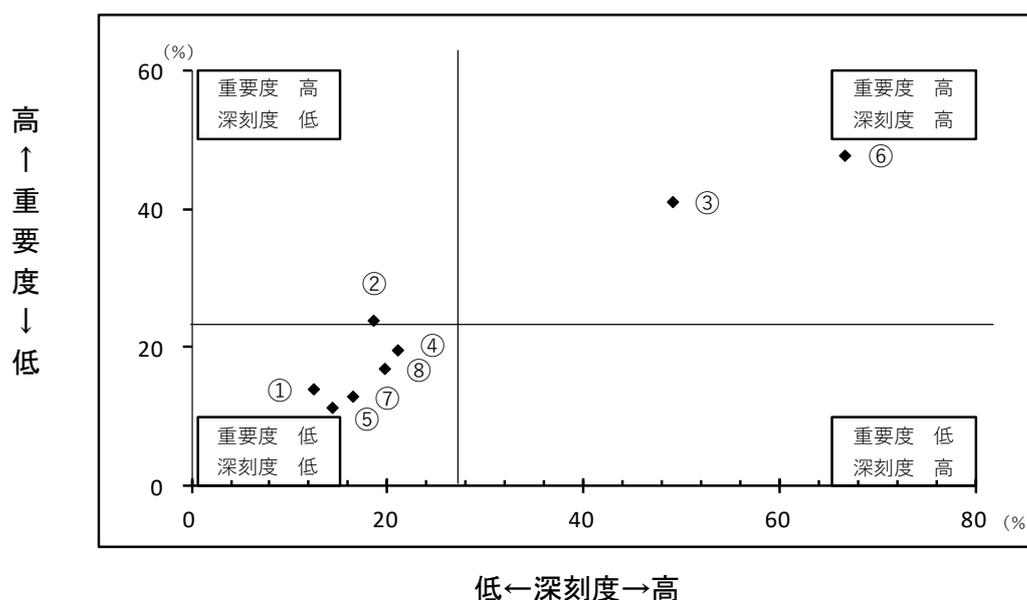


平成30年度調査と比較するとほとんど全ての項目で増加傾向にあり、特に「地球温暖化」は16.6ポイント増加しています。また、「ごみの増加や不法投棄」「酸性雨や大気汚染」は5ポイント以上増加しています。一方、「省エネや新エネルギー」が3.7ポイント減少しています。平成23年度調査以降、「身近な緑や農地の減少」は増加傾向、「省エネや新エネルギー」は減少傾向がみられます。

■環境問題の深刻度及び重要度

(%)

		深刻度	重要度
①	日常生活における騒音・振動・悪臭	12.4	14.0
②	生活排水等による河川の水質汚濁	18.6	23.9
③	ごみの増加や不法投棄	49.1	41.0
④	身近な緑や農地の減少	21.1	19.7
⑤	身近な生き物の減少	14.4	11.2
⑥	地球温暖化	66.8	47.7
⑦	酸性雨や大気汚染	16.5	12.8
⑧	有害化学物質による人体への影響	19.7	16.8
⑨	グリーン購入等環境に配慮した製品の購入		15.8
⑩	省エネや新エネルギー		21.5
⑪	環境に関する学習		15.5
	無回答	12.9	11.4



上記のグラフでは「すでに深刻な問題である(=深刻度)」を横方向、「重点的に取り組んでいく必要がある(=重要度)」を縦方向に示しています。

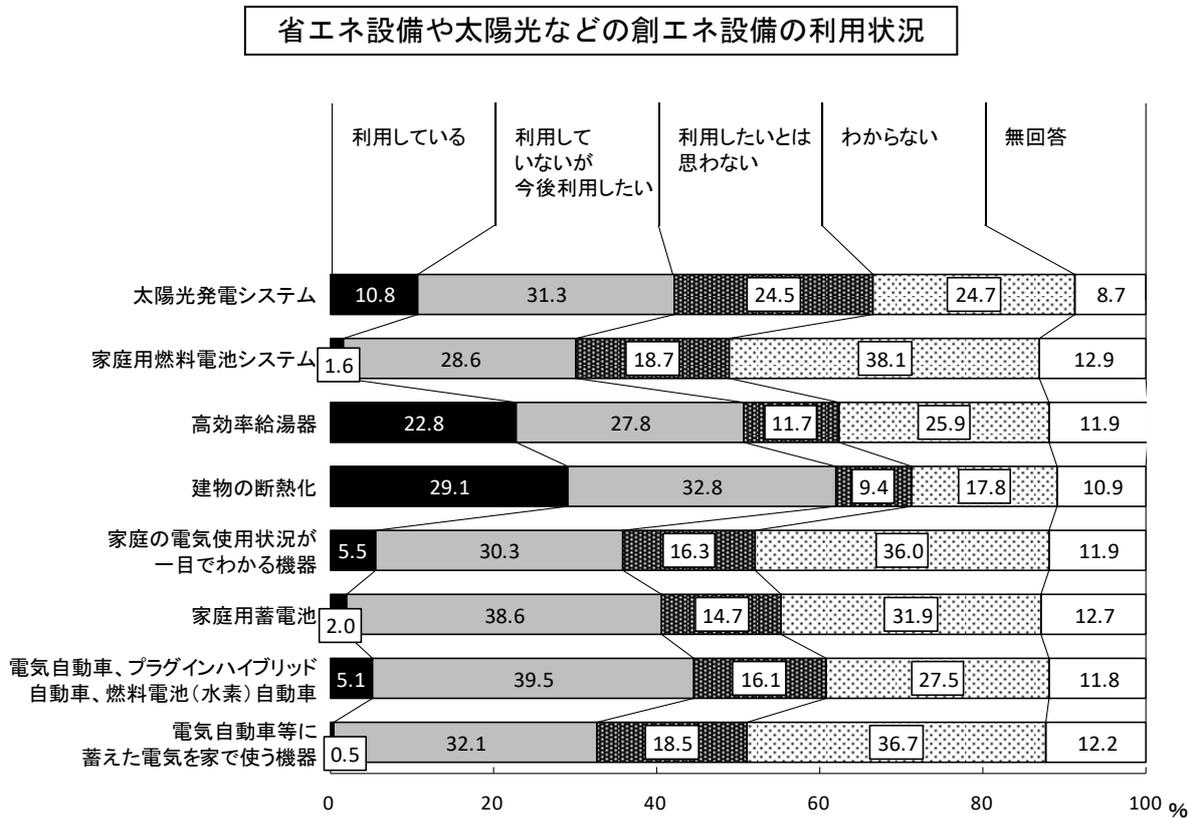
図中、右上の領域に位置する「③ごみの増加や不法投棄」「⑥地球温暖化」は、深刻度・重要度ともに高くなっています。左上の領域に位置する「②生活排水等による河川の水質汚濁」は重要度が高くなっています。

一方、その他の項目については深刻度・重要度ともに低くなっています。

3-4 省エネ設備や太陽光などの創エネ設備の利用状況

◆「建物の断熱化」29.1%◆

問 11 あなたは、省エネ設備や太陽光などの新エネルギーによる創エネ・蓄エネ設備を利用していますか。次の項目について、それぞれ1つ選び、番号を○で囲んでください。



※「電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池（水素）自動車」は、平成 28 年度調査までは「電気自動車やハイブリッド車」。

※「家庭用蓄電池」「電気自動車等に蓄えた電気を家で使う機器」は平成 30 年度調査からの項目です。

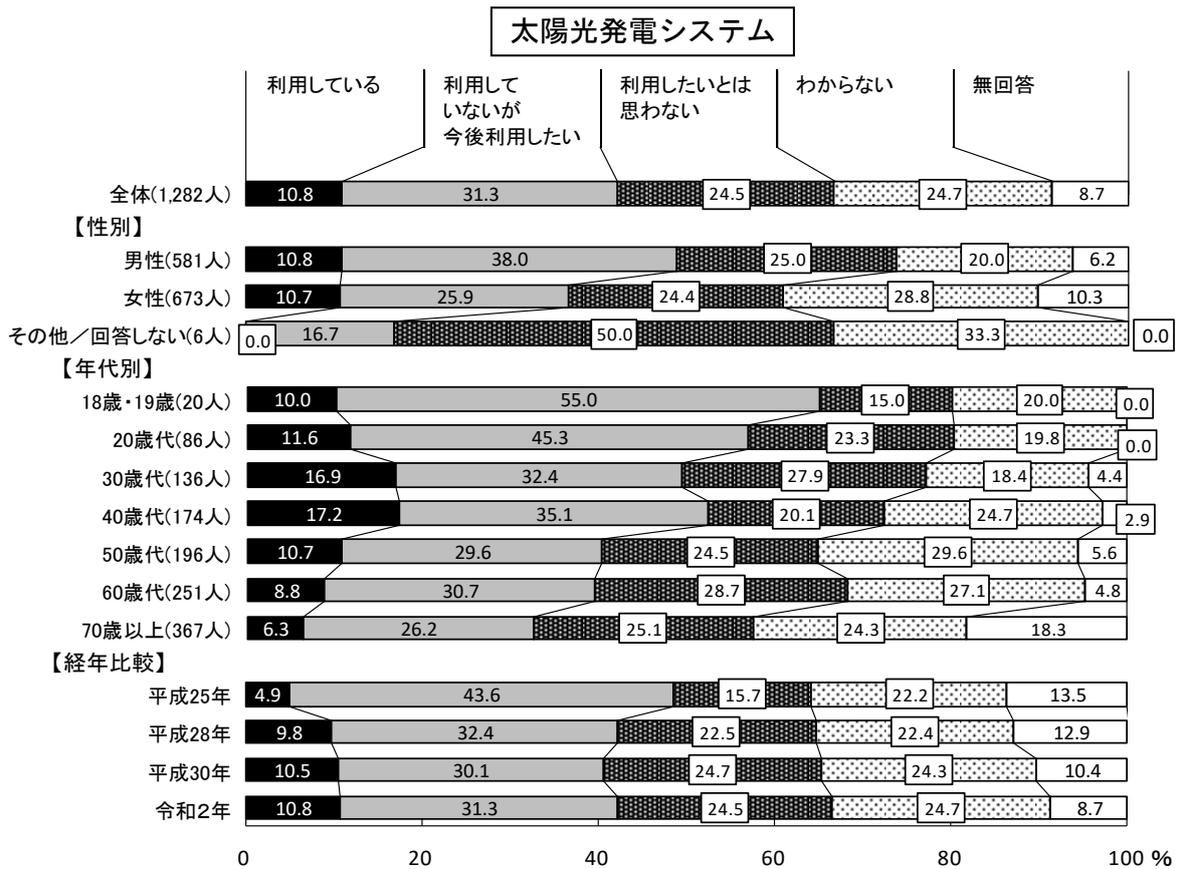
「利用している」は「建物の断熱化」が 29.1%で最も高く、次いで「高効率給湯器」が 22.8%となっています。

「利用していないが今後利用したい」は「電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車」が 39.5%で最も高く、次いで「家庭用蓄電池」が 38.6%となっています。

「利用したいとは思わない」は「太陽光発電システム」が 24.5%で最も高く、次いで「家庭用燃料電池システム」が 18.7%となっています。

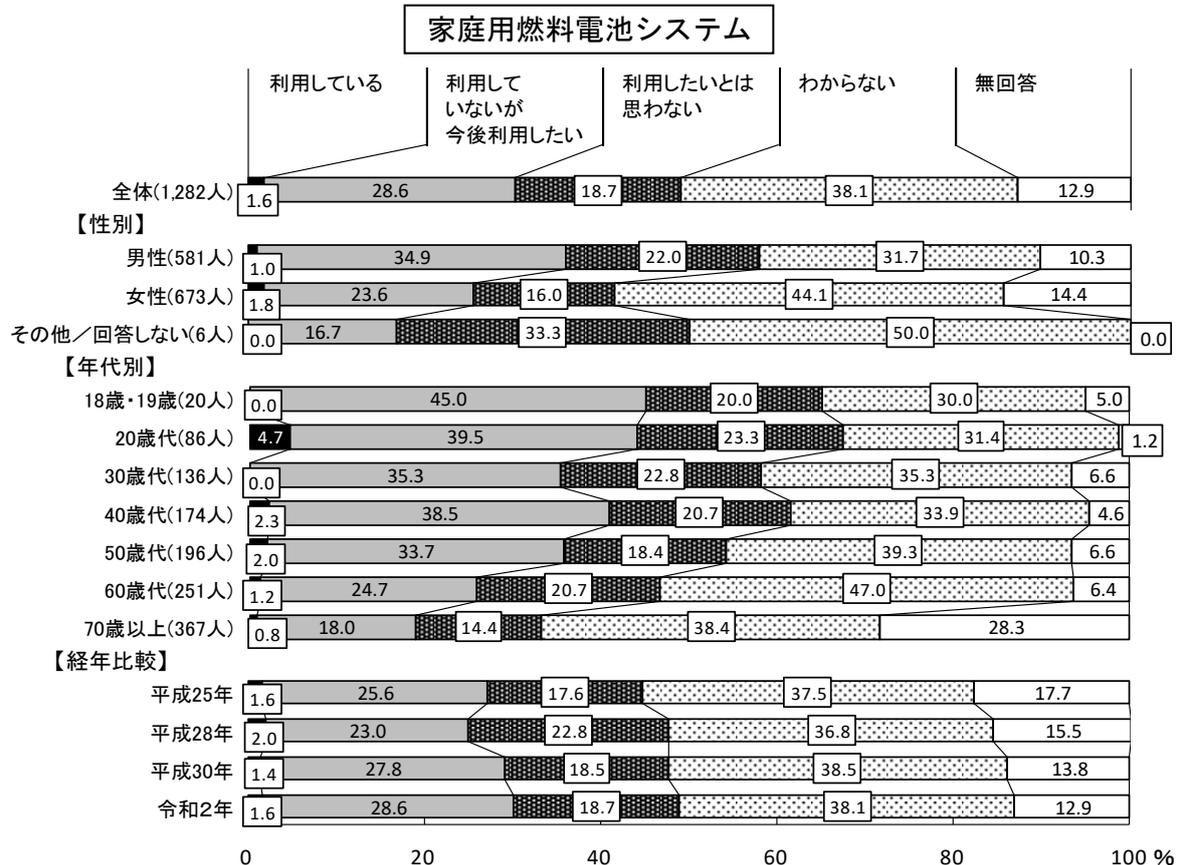
太陽光発電システム

◆「利用している」10.8%、「利用していないが今後利用したい」31.3%◆



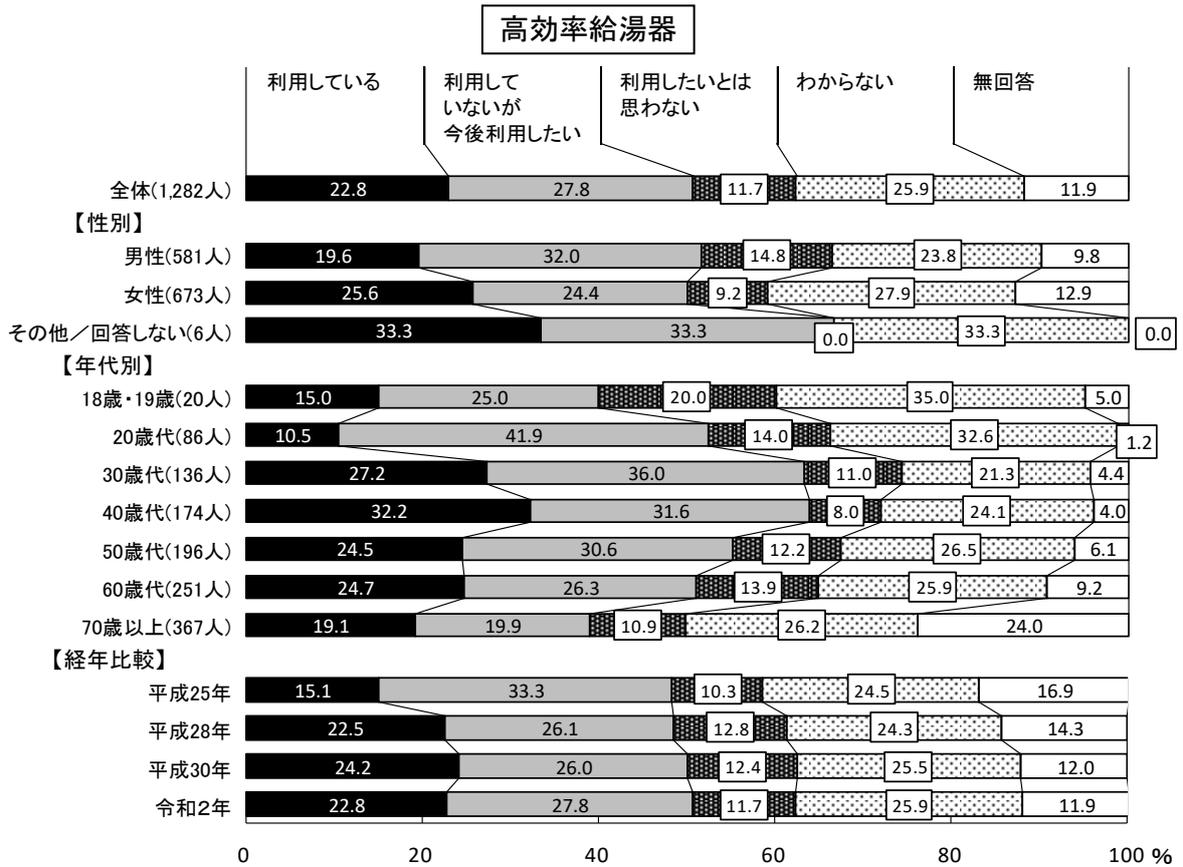
家庭用燃料電池システム

◆「利用している」1.6%、「利用していないが今後利用したい」28.6%◆



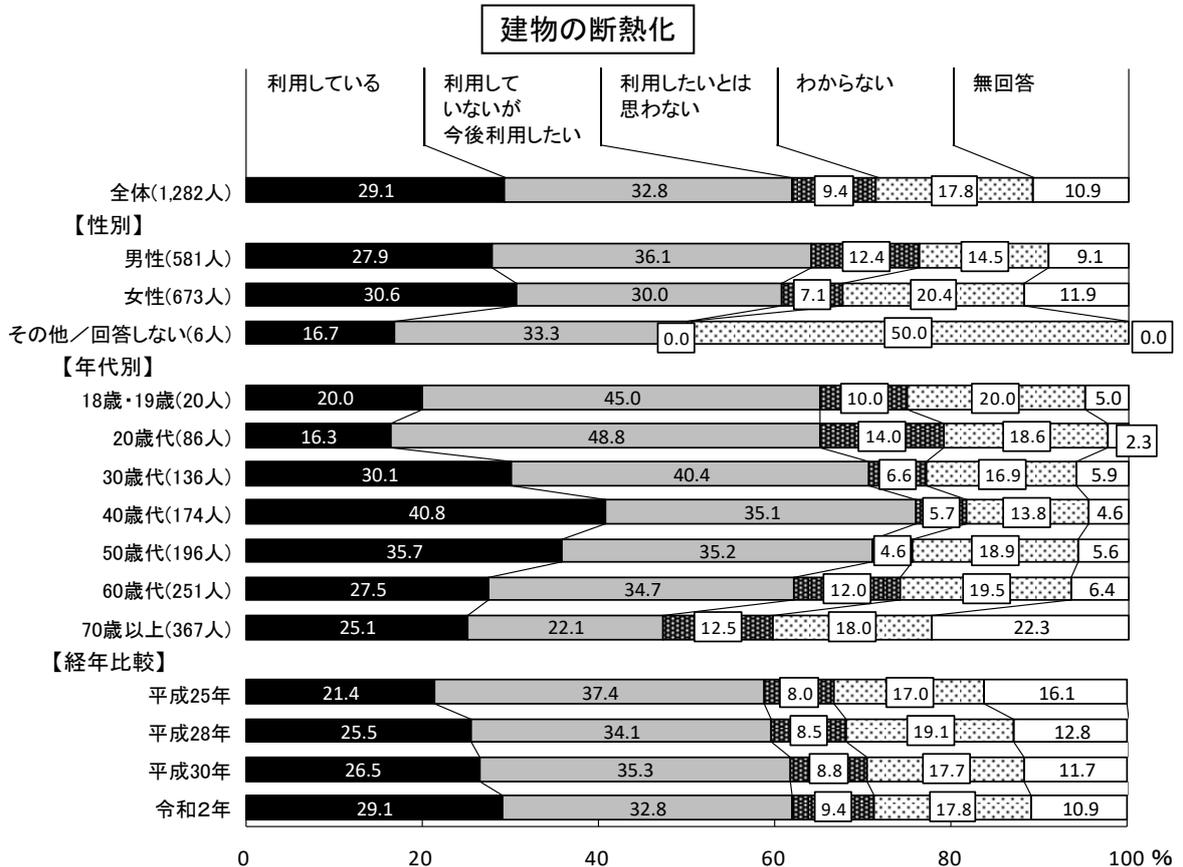
高効率給湯器

◆「利用している」22.8%、「利用していないが今後利用したい」27.8%◆



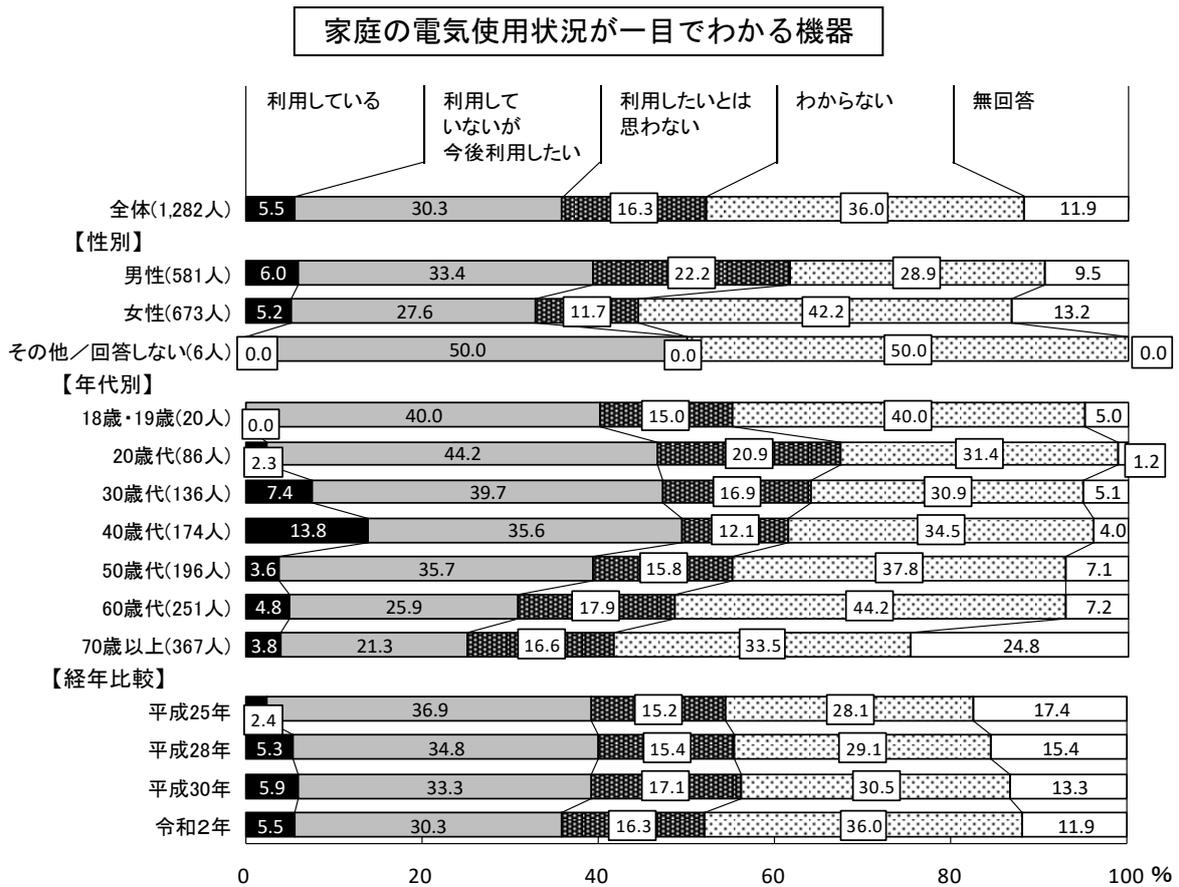
建物の断熱化

◆「利用している」29.1%、「利用していないが今後利用したい」32.8%◆



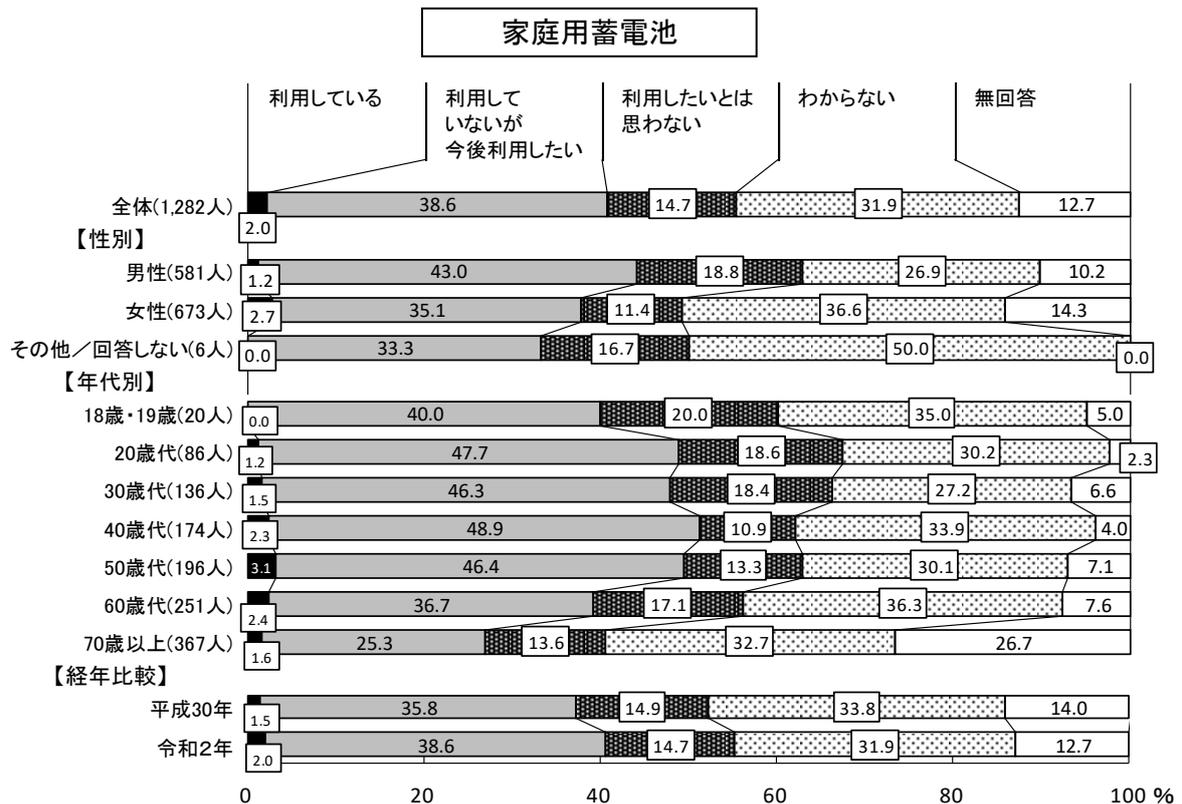
家庭の電気使用状況が一目でわかる機器

◆「利用している」5.5%、「利用していないが今後利用したい」30.3%◆



家庭用蓄電池

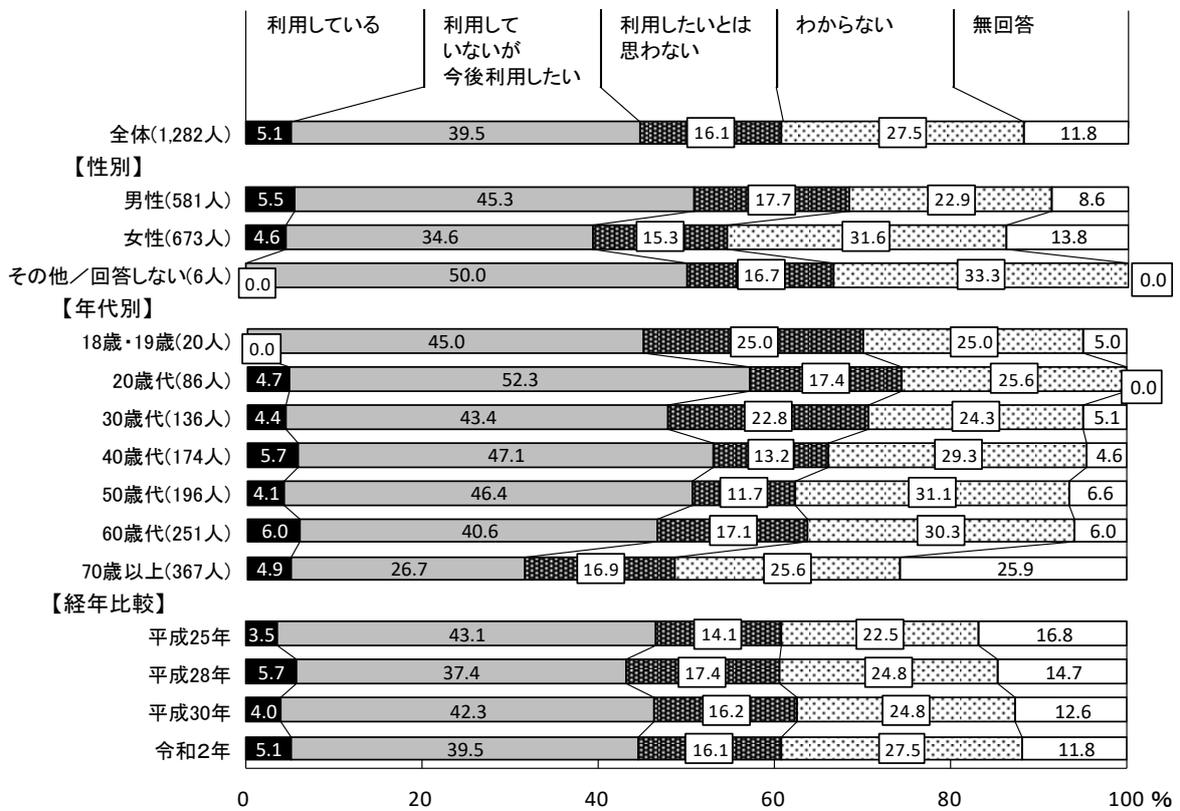
◆「利用している」2.0%、「利用していないが今後利用したい」38.6%◆



電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車

◆「利用している」5.1%、「利用していないが今後利用したい」39.5%◆

電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池（水素）自動車



電気自動車やプラグインハイブリッド車に蓄えた電気を家で使う機器

◆「利用している」0.5%、「利用していないが今後利用したい」32.1%◆

電気自動車やプラグインハイブリッド車に蓄えた電気を家で使う機器

